



ぷろじえくと えん 鳥取県

命の授業「赤ちゃんふれあい会」



緊張しながら赤ちゃんを抱っこ。自分が赤ちゃんだった頃に思いをはせ、自己肯定感を育むひと時です。優しいまなざしは親になるための準備教育となります。

活動の概要

2005年より岩美町の小中学校において、小学5年生、中学2年生を対象に、乳幼児親子とのふれあい体験の授業を行っています。活動のきっかけは、「荒れていた高等学校の生徒が、赤ちゃんとのふれあうことで心が癒されて自己肯定感が芽生え、学校全体がとてよくなった」という話を聞いたことでした。中学2年生は6月と10月の年2回、家庭科の単元として実施。生徒と乳幼児親子が1対1でペアを組み、個別に密接なふれあいをする点が特徴です。おとなしい生徒やコミュニケーションが苦手な生徒もみんな等しく、まっすぐに赤ちゃんに向き合い、「命」を肌で感じる体験をします。



小中学生の間に複数回ふれあいの体験をすることで、生徒たちの接し方にも成長が見えます。



小学5年生の赤ちゃんふれあい会。赤ちゃんの保護者からは「自分の子どもの将来像が見えてとてもいい」という声が聞かれます。

活動の特徴

年間出生数が100人足らずの岩美町で 生徒1人に赤ちゃん1人のふれあいを実現

町だけでは赤ちゃんが足りないため、周辺自治体に住む親子にも声をかけて募集します。すべての生徒が“逃げられない”状況で赤ちゃんに向き合います。



月齢1、2カ月の赤ちゃんをメインに 育児の大変さ、命の大切さを伝える

首の据わっていない月齢1、2カ月の赤ちゃんの参加があれば、クラス全員に抱っこさせます。赤ちゃんを大事そうに抱っこする生徒たちはいい表情をします。



ふれあいの中身は赤ちゃんの保護者にお任せ 親子と生徒の距離が縮まりOneチームに

ミルク作り、オムツ替え、爪切りなど、ふれあいの中身は赤ちゃんの保護者に任せています。離乳食や母子手帳を持ってきて話をしてくれる保護者もいます。



参加者の声

赤ちゃんが家族に大切にされていることがわかりました。私もあんな風に育ててもらったのかなと、すごくうれしくなります。(中2女子)

中学生になって、小学5年生の時とは違う見方や接し方ができた。僕を育ててくれた父、母、家族に感謝します。(中2男子)

中学生と話をすることは普段ないので貴重な経験でした。予想とは違い、いろいろな話ができてすごく楽しかったです。(保護者)

多感な時期ですが、一生懸命に子どもと関わってくれる姿が印象的でした。自分の子どもがどんな中学生になるのか楽しみです。(保護者)